

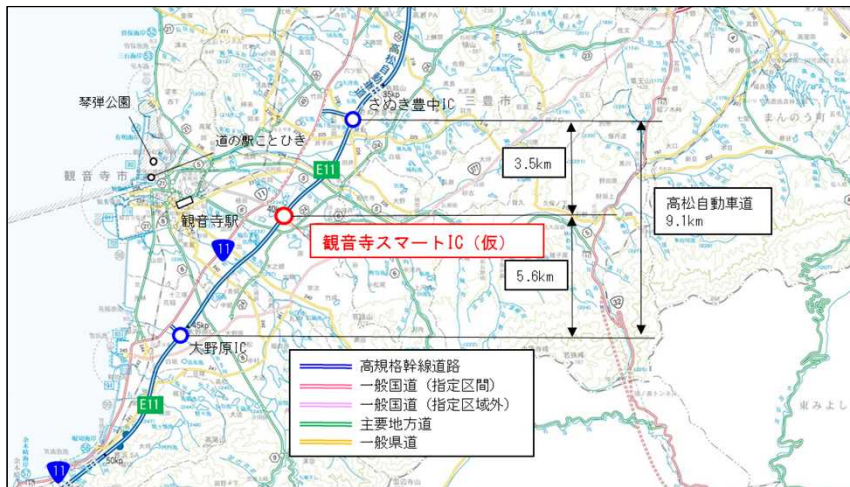
再 評 価 対 象 事 業

観音寺スマートインターチェンジ(仮称)
アクセス道路整備事業

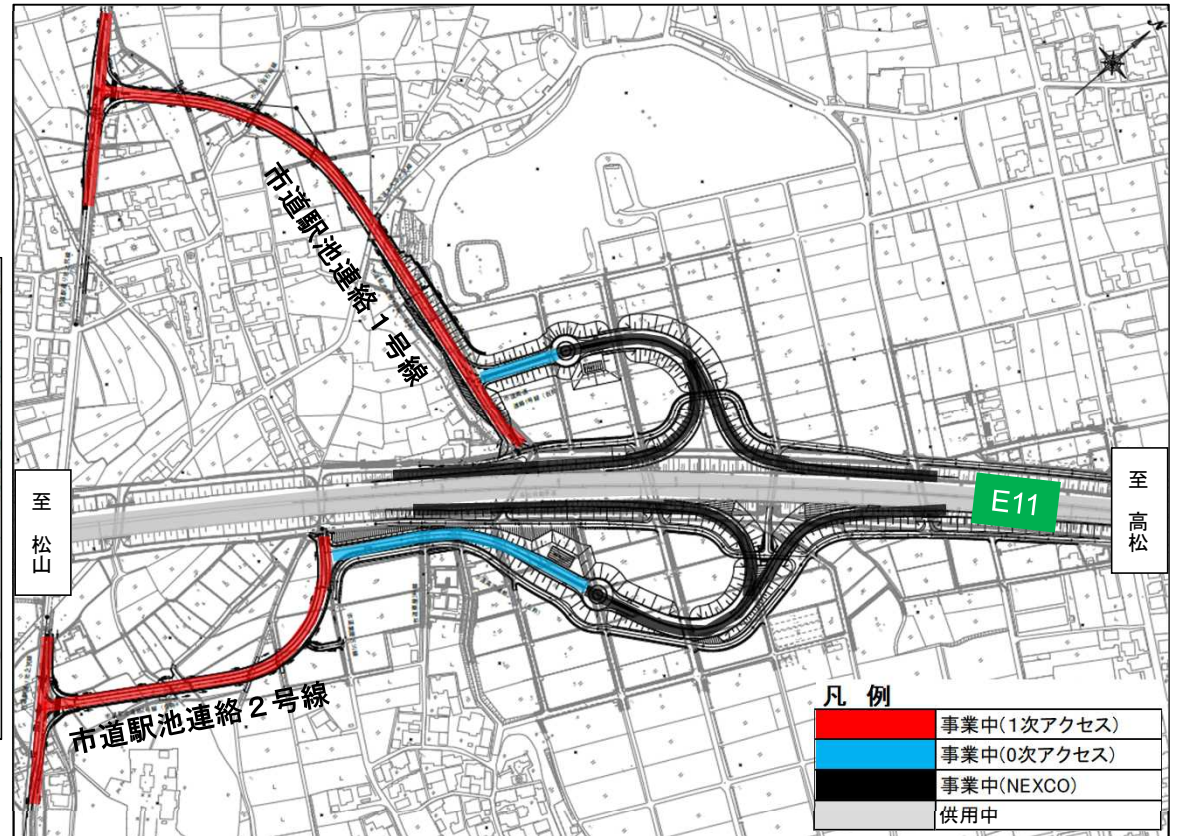
観音寺市

1. 事業概要

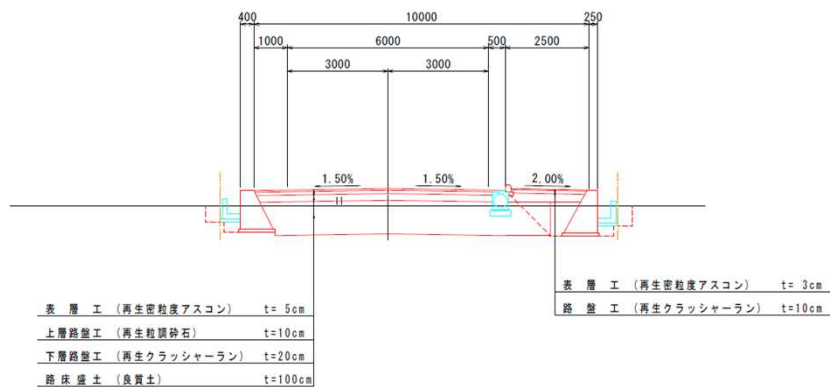
【位置図】



【平面図】



【標準横断面図】

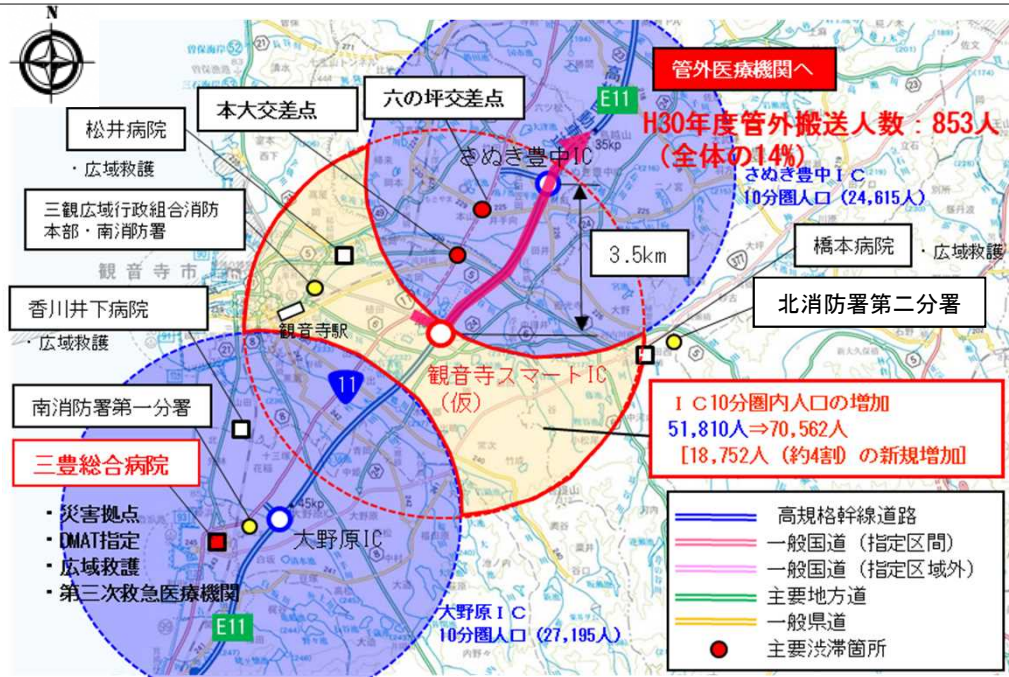


【整備概要】

- ・ 事業主体 : 観音寺市
- ・ 整備延長 : 0.8 km
- ・ 規格 : 3種3級、設計速度40 km/h、2/2車線
- ・ 計画交通量 : 2,700台/日

- 観音寺スマートインターチェンジ (仮称) の新設に伴い、SIC本体と既設市道とを結ぶ 1次アクセス道路 を新設する。

2. 事業の必要性



【整備効果① (救急医療)】

- 第三次救急医療機関である三豊総合病院は他県からも搬送を受け入れているため、状況によっては患者の受け入れが出来ず管外搬送せざるを得ない状況が発生している。



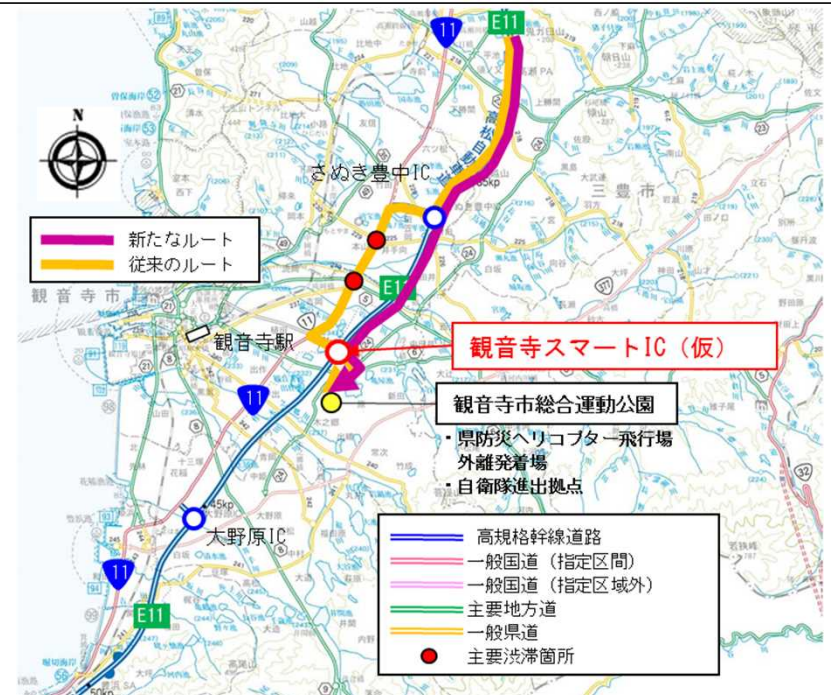
- ・管内医療機関の受入ができない場合における管外への多様な搬送ルートが選択可能になるほか、重症患者の搬送時間を短縮できる。
- ・IC10分圏内となる人口が新たに18,752人増加し、より多くの重症患者を迅速に管外へ搬送できる。

【整備効果② (災害)】

- 観音寺市総合運動公園は、大規模災害時における、県防災ヘリコプター用飛行場外離発着場や自衛隊の進出拠点となっている。しかしこの施設へのアクセスは、さぬき豊中ICから国道11号を経由するルートに限定されている。



- ・主要拠点への新たなルートが確保でき、従来のルートよりも迅速かつ確実な対応ができる。



3. 進捗状況

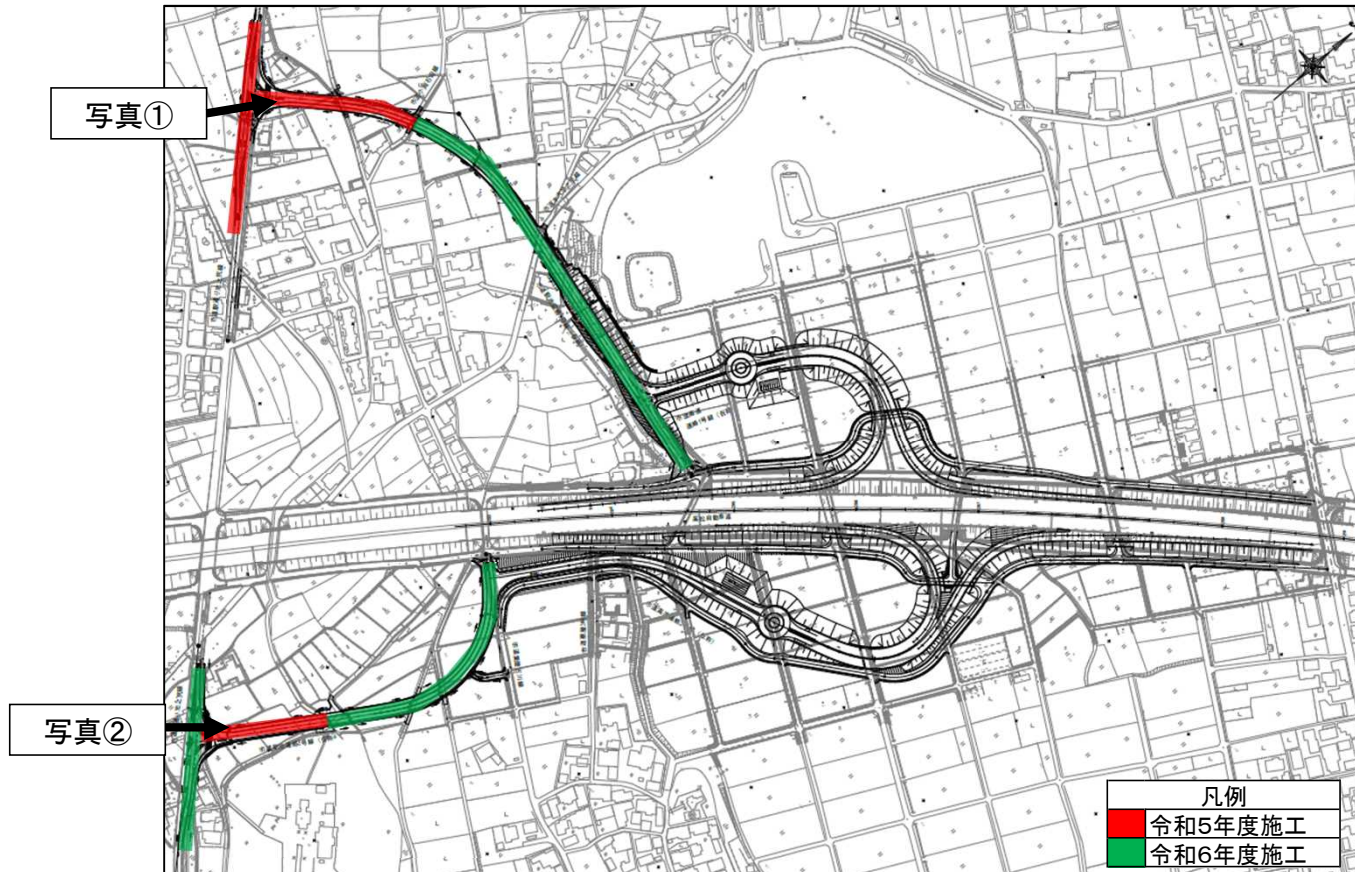
【工程表】

現在

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
実施内容	詳細設計 用地測量 物件調査 用地買収	詳細設計 用地測量 物件調査 物件補償 用地買収	物件補償 用地買収 本工事	本工事	本工事

(令和7年度末運用開始予定)

【工事進捗状況】



※令和7年度は全線の舗装、標識等の付属物を予定

4. 全体事業費の見直し

【全体事業費】

令和4年度に詳細設計が完了し、全体事業費の見直しを行った結果、当初5.4億円が11.2億円(+5.8億円)となった。

今回は8項目ある理由の内、特に増額の大きい2項目(★印)について取り上げる。

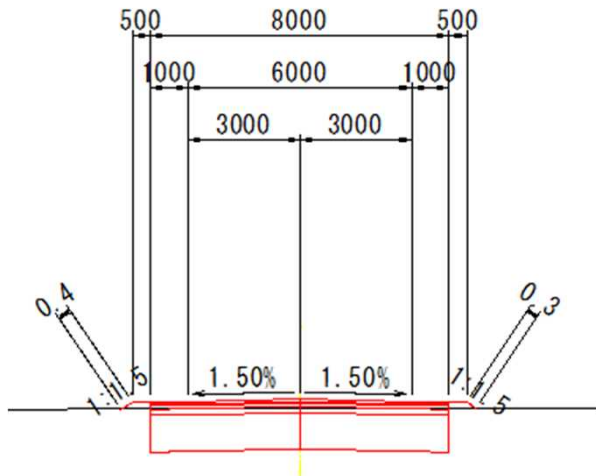
【増額の内訳】

新規採択時評価 (百万円)			
工事費	測量試験費	用地及び補償費	合計
400	40	100	540
再評価時 (百万円)			
工事費	測量試験費	用地及び補償費	合計
883	37	200	1,120

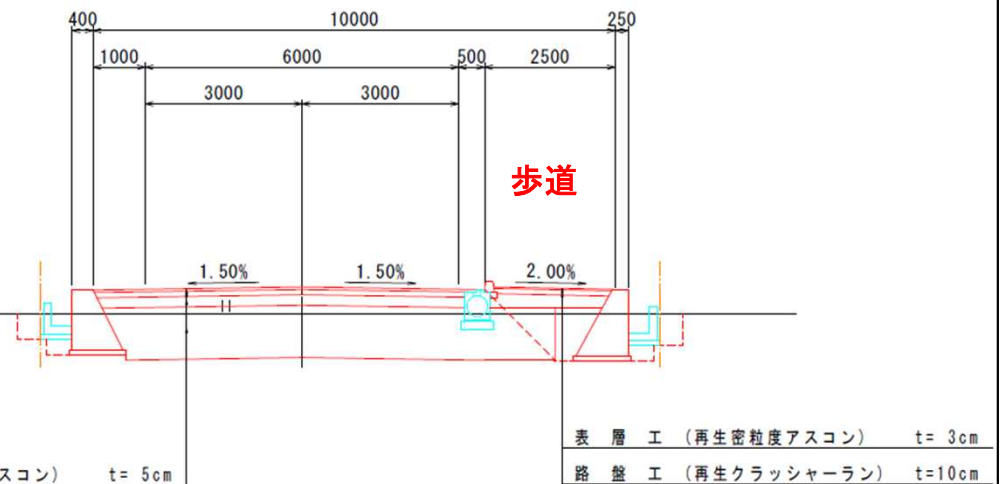
項目	変更内容	変更額内訳	増減額
★ ① 幅員構成の変更による増額	・当初は、スマートICへのアクセス道路としての側面が非常に強いため車道のみを計画していた。詳細設計を行う中で、自動車専用道路でないのであれば、歩道を設置して欲しいと地元から要望を受け、協議の結果、構造を変更したことで工事費および用地費が増額となった。	・工事費 90百万円の増 ・用地及び補償費 20百万円の増	110百万円
★ ② 右折車線の追加による増額	・当初は中心市街地方向からの進入(左折での進入)がほとんどであると想定していたため、右折車線が不要であると判断していた。詳細設計を進める中で、渋滞状況や事故件数などを調べ、右折車線を設置しないことで新たな事故を引き起こす可能性があることが判明し、右折車線を設置することとした。これにより工事費、用地及び補償費が増額となった。	・工事費 157百万円の増 ・用地及び補償費 80百万円の増	237百万円
③ 盛土の増加による増額	・詳細設計を行う中で、駅池連絡1号線によって集落(自治会)から分断されて孤立してしまう家屋が3件あるため、一部法線の変更要望があった。その結果、盛土が増加したことで工事費が増額となった。	・工事費 87百万円の増	87百万円
④ 既設道路との取り合わせ追加による増額	・当初は横断する既存道路の現況高さに合わせるよう、縦断計画を立てていた。詳細設計を行う中で、横断する用水路の土被りが不足していることが判明し、縦断計画を既存道路よりも高くする必要が生じたため、取り合わせの道路擁壁等が追加になったことで工事費が増額となった。	・工事費 44百万円の増	44百万円
⑤ 社会的要因による増額	・昨今の労務費の上昇や資材高騰などの社会的要因により工事費が増額となった。	・工事費 61百万円の増	61百万円
⑥ 道路標識の追加による増額	・関係機関との協議により、市街地へ設置するスマートICへの案内標識(新設および書換)が追加となったことで増額となった。	・工事費 35百万円の増	35百万円
⑦ 交通安全施設の追加による増額	・詳細設計を行った結果、隣接する水路底より高さ1m以上の箇所に転落防止柵の設置、また、盛土高さ2m以上の路肩にガードレールの設置を追加したことで工事費が増額となった。	・工事費 9百万円の増	9百万円
⑧ 計画延長減に伴う減額	・詳細設計を行う中で、地元協議により法線の変更が生じ、それに伴い計画延長が短くなったことで、用地買収の面積や筆数が減となり測量試験費(用地測量費)が減額となった。	・測量試験費 3百万円の減	▲3百万円
合計			580百万円

5. 増額の理由①(幅員構成の変更)

概略設計
(新規採択時)

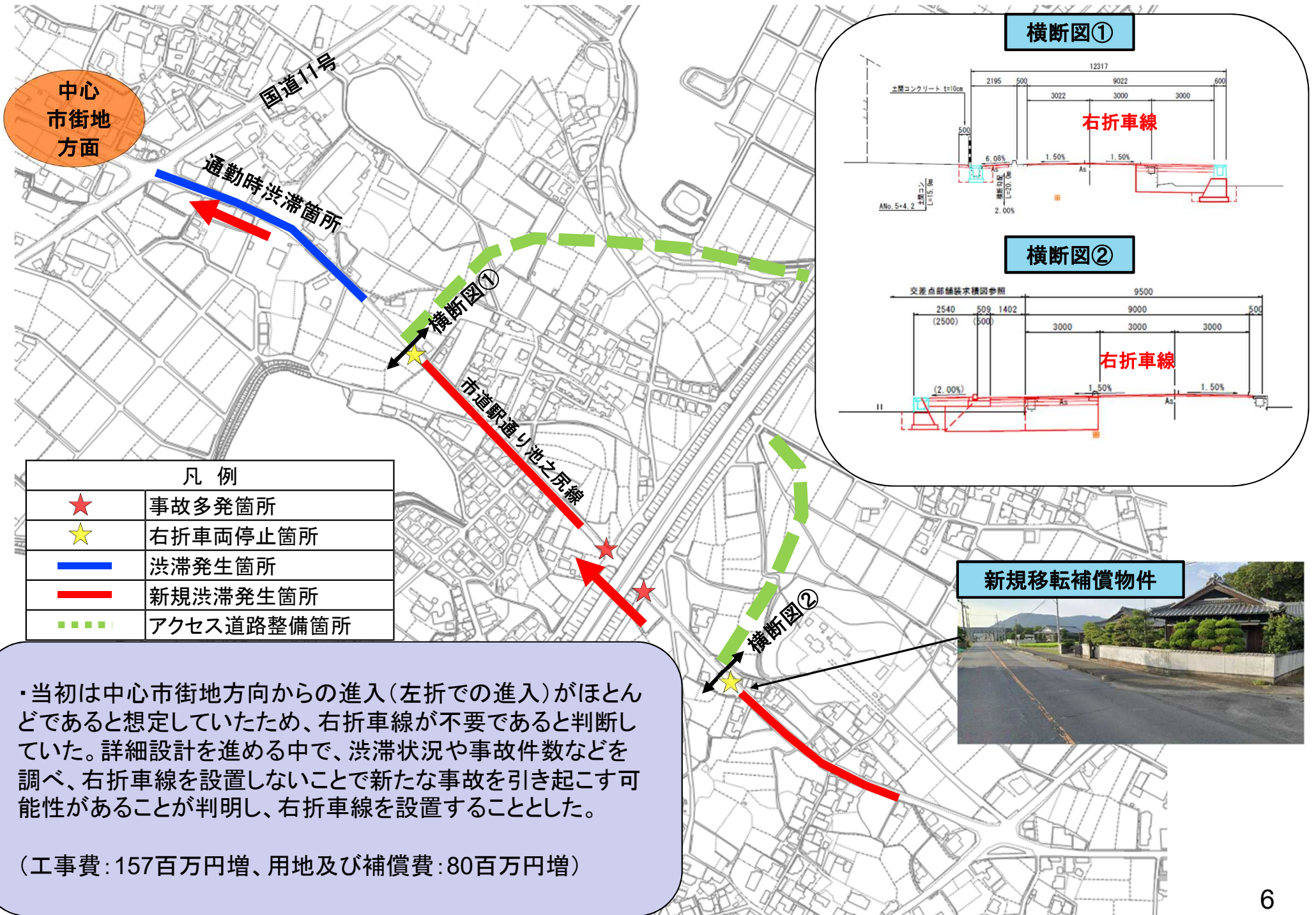


詳細設計
(再評価時)



・当初は、スマートICへのアクセス道路としての側面が非常に強いため車道のみを計画していた。詳細設計を行う中で、自動車専用道路でないのであれば、歩道を設置して欲しいと地元から要望を受け、協議の結果、幅員構成を変更した。
(工事費:90百万円増、用地及び補償費:20百万円増)

6. 増額の理由②(右折車線の追加)



7. 費用対効果

①費用

単位：億円

	事業費	維持管理費	合計
基準年	令和5年度(2023年度)		
単純合計	11.2億円	1.0億円	12.2億円
基準年における 現在価値(C)	10.8億円	0.4億円	11.2億円

②便益

単位：億円

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	令和5年度(2023年度)			
供用年	令和7年度(2025年度)			
単年便益 (初年便益)	2.6億円	0.37億円	0.11億円	3.0億円
基準年における 現在価値(B)	46.7億円	6.8億円	1.9億円	55.4億円

※推計交通量2,700台(平成22年道路交通センサスをベースとした自動車OD表(三段階推定法)より)

③結果

新規採択時

再評価時

費用便益比(B/C)	7.15	4.97
経済的純現在価値(B-C)	29.8億円	44.3億円
経済的内部収益率(EIRR)	24.3%	19.1%

8. 再評価の視点及び対応方針(案)

事業の必要性等に関する視点

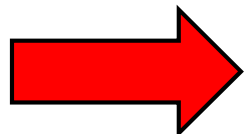
- 管内医療機関の受入ができない場合における管外への**多様な救急搬送ルートが可能**になるほか、重症患者の**搬送時間を短縮**できる。また、IC10分圏内となる人口が新たに**18,752人増加**し、より多くの重症患者を迅速に管外搬送できる。
- 大規模災害時における、県防災ヘリコプター用飛行場外離発着場や自衛隊の進出拠点である**観音寺市総合運動公園へのアクセス**が容易になり、迅速かつ確実な対応が出来る。
- 費用便益比 (B/C) = 4.97
- 用地買収および物件補償が概ね完了し、本工事を残すのみとなっている。

事業の進捗の見込みの視点

- 観音寺スマートインターチェンジ(仮称)の整備を本事業と同時進行でNEXCOが進めており、令和7年度末(2025年度末)を供用開始目標としている。

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- 買収済の用地をストックヤード地として有効活用し、他工事の残土を盛土材として積極的に受入れることで残土処分や購入土のコスト縮減を図っている。
- 今後も盛土材の工事間流用を積極的に行いながら、工期短縮やコスト縮減に努める。



対応方針(案) : 継続